

漆芸美術館だより

85
2018.12.20

展覧会紹介：「第36回日本伝統漆芸展」輪島展	2
展覧会紹介：「第24回飛翔する輪島の漆芸作家たち—全国展入選作品—」	3
漆の小箱25 没後1周年追悼展	
「文化功労者 三谷吾一の世界—時代を画す沈金加飾の探究者—」を終えて	4
当館友の会研修旅行報告	5
INFORMATION	6



奨励賞 輪島漆芸美術館賞 蒔絵盛器「銀色の夜」 田中義光

「第36回日本伝統漆芸展」輪島展

会期 2019年2月2日(土)～25日(月)

*会期中無休

日本を代表する工芸として、永い歴史を持つ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承とその練磨、現代への応用を目的として毎年開催されています。第36回を迎える今年度は、受賞作8点を含めた全91点を展示いたします。

表紙の作品は、奨励賞輪島漆芸美術館賞を受賞した田中義光氏の《蒔絵盛器「銀色の夜」》です。桐材を刳った楕円形の盛器で、作者が夏の夜に見た、月とホタルの光に照らされた草花の様子があまりにも神秘的で美しかったため、その情景を表現したそうです。銀蒔絵で描かれた柔らかな輝くシダ植物の茂み、乾漆粉と夜光貝のきらめきのなかに、すつと一本道を表し、作品からは静けさの中に力強さを感じられます。

日本伝統漆芸展新人賞を受賞した山田千晴氏の《乾漆蒔絵箱「萌ゆ」》は乾漆技法で作られた、蓋の甲が緩やかに盛り上がる箱形の作品です。蓋の甲面から側面にかけて、卵殻と蒔絵でつぼみから開花にいたるまでのさまざまな姿態のモクレンをあらわして

います。箱全体は赤みを帯びた溜塗で、白い卵殻と濃いピンク色の彩漆でモクレンの花を、満開の花にはシベに夜光貝の螺鈿をあしらうことで、より一層華やかな印象を与えています。春のうらかな陽気のなかで、天に向かってこぶし大の花を咲かせる



乾漆蒔絵箱「萌ゆ」 山田千晴
日本伝統漆芸展新人賞

モクレンの姿と、芽生えを意味する「萌ゆ」という作品名からは、初入選の作者の初々しい決意が感じられます。

重鎮から新進気鋭の作家がしのぎを削り、漆工芸の果敢な挑戦と、各産地の伝統が育

んだ地域性を見ることが出来る展覧会となっております。日本の漆芸界を牽引する輪島での開催を通して、多くの方にご覧いただければ幸いです。
(高津綾乃)

列品解説のご案内

会期中毎日曜日13時30分から、出品者による展示作品の解説を行います。入館券が必要です。

- 2月3日 田中義光氏(日本工芸会正会員)
- 2月10日 寺西松太氏(日本工芸会正会員)
- 2月17日 山岸一男氏(重要無形文化財保持者、鑑査委員)
- 2月24日 小森邦衛氏(重要無形文化財保持者、審査・鑑査委員)

輪島あえの風冬まつり協賛 入館料特別割引

期間 2月9日(土)～17日(日)

期間中は割引料金でご鑑賞いただけます。

- 一 一般 410円
- 高大学生 210円
- 小中学生 100円

「第24回 飛翔する輪島の漆芸作家たち―全国展入選作品―」

会期 2019年3月2日(土)～5月13日(月)

*会期中無休

今年で24回目を迎える本展覧会は、輪島の現代漆芸作家たちの全国公募展での活躍に焦点を当ててご紹介するものです。今回は36名の作品を会派を越えて一堂にご覧いただけます。

第一部では日展や日本伝統工芸展など漆芸部門を有する平成29年度の全国公募展において入選・受賞を果たした作品を展示します。

ここでは第一部の作品から2点をご紹介します。最初にご紹介するのは、第64回日本伝統工芸展で日本工芸会奨励賞を受賞した大角裕二氏の《時絵六角箱「瀑布」》です。



時絵六角箱「瀑布」 大角 裕二
第64回日本伝統工芸展
日本工芸会奨励賞

滝や岩壁が見せる多彩な表情を六角形の黒漆箱に映し出しています。短側面には黒い岩肌を表すために乾漆粉が蒔かれていきます。長側面には薄貝螺鈿で陽光に輝く昼間の滝、研出時絵で趣ある夕方の滝を対比的に描き、時間の移ろいも表現しています。刻一刻と変化する水辺の風景を瑞々しく描写した作です。



「夜の翼」 木谷 陽子
改組新第4回日展特選

改組新第4回日展で特選を受賞した木谷陽子氏の《「夜の翼」》は、梟の鋭い眼光に

引き寄せられる作品です。紆曲した樹を背景に、闇夜を滑空する梟の堂々とした姿を、銀粉と緑色の乾漆粉を使用した研出時絵で描いています。ダイナミックな画面構成、シンプルに統一された色合いが洗練された印象を見る者に与えます。

この他にも第I部では各作家の近年の秀作を展観できる絶好の機会となっておりますので、ぜひ会場でお楽しみいただければ幸いです。

また、第II部では「萌芽」をテーマに作家たちから寄せられた作品を新作・旧作・出品展覧会問わず展示いたします。「萌芽」は「芽の萌え出ること」だけでなく、「物事の始まり」も意味します。新元号となる2019年にふさわしいテーマとしましたが、作家によって捉え方は異なります。各作家がそれぞれの想いを込めた作品をどうぞご堪能ください。

なお、展覧会会期中の3月10日(日)13時30分から木谷陽子氏を講師にお迎えして、「トーク&ワーク」を開催します。作家の実演を交えて作品の制作工程を知ることが出来る貴重な機会となっております。皆さまのご参加をお待ちしています。(山内亜沙美)

漆の小箱25

没後1周年追悼展

「文化功労者 三谷吾一の世界―時代を
画す沈金加飾の探究者―」を終えて

2018年9月8日から11月5日まで、
没後1周年追悼展「文化功労者 三谷吾一
の世界―時代を画す沈金加飾の探究者―」
を開催しました。本展覧会は、2002年
に日本芸術院会員、2015年に文化功労
者となった輪島市名誉市民・三谷吾一氏の
逝去を悼み、その功績を作品全55点からご
紹介したものです。ここでは、展示や会期
中に実施された講演会などを振り返り、展
覧会では語りつくせなかった作品の魅力や
芸術家としての人柄に迫ります。

三谷氏の線彫りについて

三谷氏の運刀法の確かさは線彫りの仕事
にこそ見出すことができるかもしれません。
展覧会の準備段階に出合うことのできた1
968年頃制作の「さぎ沈金額」（個人蔵）
は三谷氏の根底にある仕事を雄弁に物語っ
ています。つがいの鷺が線彫りを主たる技
法として描かれています。線彫りは流麗か
つ心地よい一定のリズムを刻み、その工芸
的な技巧をデフォルメされた鳥の姿に同居
させました。柔らかな羽毛に、厳しい冬を
耐え凜と立つたくましさをも感じさせます。

一刀一刀の正確さは若き日に親方のもと仕
事に追われた日々が支えたのでしょ。こ
の後、三谷氏は絵画にせまる沈金表現を実
現するため、点彫りを中心とした制作を選
び取っていきます。その精密さは点彫りに
も表れていることは言うまでもありません。

漆文化セミナーより

三谷氏は従来の沈金になかった淡い色彩
表現を確立し、透明感あふれる幻想的な作
風を築きました。その功績が2002年日
本芸術院会員就任に結実。その後も色彩の
対比や金属箔の強い輝きを取り入れたり、
漆を20回ほど塗り重ねた板を文様に切り貼
り付けるなど、より鮮やかかつ自由な作品
を展開しました。常に新たな創造を求める、
根っからの芸術家としてのパーソナリティ
は、父としての横顔にもにじみ出ていまし
た。会期中に行われた講演会において、ご
子息である三谷慎氏から語られた吾一氏の
暮らしとは、生活を支えるために夜遅くま
で日々沈金の仕事にいそしみ、休みを費や
してまで展覧会へ発表する作品を作り続け
る毎日でした。そうした光景は吾一氏が亡
くなる直前まで続いたといえます。慎氏が
彫刻の道へ進んでからというもの、二人が
顔を合わせれば、自身の作品や関心の深い
美術の話題で持ちきりでした。父子の会話
は、さながら作家同士の交流でもあったの

です。

2017年7月、輪島はあまりに大きな
人を失いましたが、常に新たな創造を求め
続ける姿勢は後に続く世代へ大きな刺激を
与えたに違いありません。作品はこれから
も、私たちに絶えず語りかけることでは
う。

(寺尾藍子)



10月28日(日) 第3回漆文化セミナー
「文化功労者 三谷吾一氏の足跡を振り返る」

講師 三谷 慎氏 (彫刻作家)
角 康二氏 (沈金作家・日展会員)
細川英邦氏 (輪島市漆器商工課)



「さぎ沈金額」 1968年頃



▼石川県輪島漆芸美術館は

新年元日から開館いたします

2019年1月1日は午前9時から開館し、新年限定のおもてなしをご用意いたします。美術館で漆芸作品を鑑賞しながら、新たな年を寿ぎませんか。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

新年を寿ぐおもてなし

期間 1月1日(火・祝)～3日(木)
わんじまのお年賀プレゼント*要入館券
新春ゲームコーナー *入場無料

限定ガチャポン *1回500円
数量限定 新春福袋販売

*10個限定、2,000円

★わんじまのオリジナル新商品入り!
数量限定のためお早目に!

▼輪島漆芸美術館友の会「秋季研修旅行」

【大阪の美術館・博物館をめぐる旅】

参加者20名

10月24日(水)～10月26日(金)

◇あべのハルカス美術館 ◇大阪市立美術館
◇大阪市立東洋陶磁美術館 ◇大阪日
本民芸館 ◇国立民族学博物館 ◇太陽の
塔・EXPO'70パビリオン ◇大阪府立弥
生文化博物館 ◇堺市博物館



恒例の秋季研

修旅行、今年は大阪へ。はじめに訪れたのは、日本一の高さを誇る超高層ビル内のあべのハルカス美術館。今年3月から48年ぶりの内部公開で話題になった

で話題になった

大阪万博のシンボル「太陽の塔」展を鑑賞し、神秘的な世界と岡本太郎の芸術に引き込まれました。地上約300メートルの展望台からの絶景も堪能し、次に大阪市立美術館へ移動。「ルーヴル美術館展 肖像芸術―人は人をどう表現してきたか」を鑑賞。マリー

リアントワネットの胸像やナポレオンの肖像作品など、ルーヴルの名品を間近でじっくり鑑賞することができました。

2日目は、まず大阪市立東洋陶磁美術館で学芸員の鄭銀珍氏の説明の後、約250点もの高麗青磁の至宝が展示された特別展「高麗青磁―ヒスイのきらめき」を鑑賞。次に万博記念公園に移動し、大阪日本民芸館で「民藝のバスケタリー」、国立民族学博物館で特別展「工芸継承」を鑑賞。広い館内を見てまわると時間があっという間に過ぎてしまいました。その後、太陽の塔をバツクに記念撮影し、EXPO'70パビリオンで懐かしい万博を振り返りながら、万博記念公園を後にしました。

最終日は、大阪府立弥生文化博物館へ。弥生文化についてわかりやすく紹介され、エジプト文明の謎にせまる特別展も大変興味深いものがありました。そして堺市博物館へ移動。やまと絵師土佐光吉の特別展を鑑賞した後、最後に今話題の大仙古墳を参拝し、帰路につきました。

友の会の研修旅行としては初めての大阪ということもあり、見所がいっぱいの、とても充実した研修旅行となりました。

(萬砂明世)

INFORMATION

RECOMMEND

- ▼ ☆かがやきナイトミュージアム☆
 太陽光発電LEDによる屋外イルミネーション
 期 間 2019年3月10日(日)まで
 会 場 輪島市漆の里広場
 *観覧料不要・無料駐車場完備
 今年のテーマ 「橿(ONE) LOVE」



TOPICS

- ▼ ことほ 新年を寿ぐおもてなし
 期 間 1月1日(火・祝)～3日(木)
 わんじまのお年賀プレゼント *要入館券
 新春ゲームコーナー *入場無料
 ガチャポン *1回500円
 数量限定 新春福袋販売 *10個限定・2,000円
- ▼ 輪島市内小学6年生の沈金作品「メモリアルパネル展」
 会 期 2月2日(土)～11日(月・祝)
 会 場 講義室 *入場無料
- ▼ 鬼わんじまぬりえ展 2019
 会 期 2月2日(土)～11日(月・祝)
 会 場 エントランスホール *入場無料
- ▼ 輪島あえの風冬まつり 入館料特別割引
 期 間 2月9日(土)～17日(日)
 一般 410円 高大学生 210円 小中学生 100円
- ▼ 水ようかんのおもてなし
 期 間 2月16日(土)・17日(日)
 会 場 講義室 *要入館券・1日60名様限定
- ▼ 友の会主催ミュージアムコンサート ミュージカルの調べ
 期 日 3月2日(土) 14:00～
 会 場 エントランスホール *入場無料
- ▼ 沈金箸色付体験ワークショップ
 期 日 2月6日(水)、9日(土)、13日(水)、20日(水)、23日(土)
 時 間 10:00～12:00、13:00～15:00
 参加費 1膳1,300円 *予約不要・随時受付

*内容は予告なく変更することがあります。詳細はHPをご覧ください。

休館日

2019年1月15日(火)～2月1日(金)
 2019年2月26日(火)～3月1日(金)



漆芸美術館だより 第85号

2018年12月20日

編集・発行 石川県輪島漆芸美術館
 〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地
 TEL. 0768-22-9788 FAX. 0768-22-9789
<http://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>